

平成 29 年度 支援教育コーディネーター研修 実施要項

1 目的 学校園において校内支援体制の充実を図り、支援教育を推進するために、その中心となる支援教育コーディネーターの役割を知り、実践的な指導力の向上を図る。

2 対象者 幼稚園、小・中学校、義務教育学校、府立高等学校（岸和田市立の定時制の課程を含む）及び府立支援学校（八尾市立特別支援学校を含む）において、教育相談や地域支援などを担当する、支援教育推進の中心となる教員

募集人数 100 名

3 研修内容等

回	日 時	研 修 内 容	講 師 等
1	6月12日（月） 14:00～17:00	大阪府における支援教育地域支援体制の現状 支援教育コーディネーターの役割 〔講義・実践発表・班別協議〕	大阪府教育委員会事務局 指導主事等 府立支援学校教員等 大阪府教育センター 指導主事等
2	9月7日（木） 14:00～17:00	カウンセリングマインドを活かしたコンサル テーションの方法 〔講義・演習〕	府立支援学校教員等 大阪府教育センター 指導主事等
3 *	10月20日（金） 14:00～17:00	発達障がいのある子どもの理解と支援の在り方 〔講義〕	梅花女子大学 教授 伊丹 昌一
4	11月10日（金） 14:00～17:00	アセスメントの結果を「個別の指導計画」に 活かす 〔講義・演習〕	梅花女子大学 教授 伊丹 昌一

* 第3回は、他の研修との合同開催となります。

4 会 場 (1)第1回、第2回、第3回
大阪府教育センター（大阪市住吉区荻田4丁目13番23号 電話 06-6692-1882）

地下鉄御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m
JR阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

(2)第4回
桃山学院中学校・高等学校（大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号）

地下鉄御堂筋線「昭和町」駅下車、南へ約500m
地下鉄谷町線「文の里」駅下車、南西へ約900m
JR阪和線「南田辺」駅下車、北西へ約900m

5 担 当 室 支援教育推進室

- 6 その他
- (1) 受付は30分前から
 - (2) 印鑑を持参すること
 - (3) 来所時には、所属名・名前の入った名札を着用すること
 - (4) 自家用自動車・バイク等で来所しないこと
 - (5) 事前に準備しておく事項があるので、シラバスを必ず確認しておくこと

一括募集1

平成 29 年度 研修のシラバス

1. 研修名	支援教育コーディネーター研修 (研修番号 2281)
2. 研修のねらい	<p>学校園において校内支援体制の充実を図り、支援教育を推進するために、その中心となる支援教育コーディネーターの役割を知り、実践的な指導力の向上を図る。</p> <p>目 標</p> <p>① 支援教育コーディネーターの役割を知り、子どもの支援に必要なコンサルテーションの方法を学ぶ。</p> <p>② 発達障がいの特徴を知り、子どもの実態把握に基づいた指導の在り方について理解する。</p> <p>③ 子どもの実態把握に基づいて、「個別の指導計画」の作成・活用につなげる実践力を高める。</p> <p>「OSAKA 教職スタンダード」該当項目：第 2 期 10～15, 第 3 期 4・7・8・10・11・13～15</p>

3. 研修課題とねらい等

回	研修課題	ねらい	内容	準備物・事前課題
1	大阪府における支援教育地域支援体制の現状	大阪府における支援教育を推進するための取組について学ぶ。	支援教育地域支援整備事業の取組及び大阪府における支援教育推進の課題を知る。	
	支援教育コーディネーターの役割	支援教育コーディネーターとして活動するために必要な内容・方法を知り、自身の課題を明らかにする。	実践発表を受け、実践と課題を知るとともに、交流・班別協議を通して自身の課題と今後の活動を考える。	事前課題 班別協議で交流する、各自の取組内容と課題について考えておくこと。
2	カウンセリングマインドを活かしたコンサルテーションの方法	保護者や教員からの相談を受け、支援するために必要なコンサルテーションの方法を学ぶ。	講義・演習・班別協議を通して、カウンセリングマインドについて理解を深め、保護者や教員に対し具体的な支援を提案する等、実践的なコンサルテーションの方法を学ぶ。	
3	発達障がいのある子どもの理解と支援の在り方	発達障がいの特性を知り、子どもの実態把握に基づいた指導の在り方について理解する。	発達障がいの特性に関する最新の知見や子どもの行動のとらえ方等を学び、子ども一人一人の教育ニーズに応じた指導について考える。	
4	アセスメントの結果を「個別の指導計画」に活かす	子どもの実態把握に基づいて、「個別の指導計画」の作成・活用につなげる実践力を高める。	行動観察や心理検査等から得られた結果を、一人一人の教育ニーズに応じた具体的な指導内容・方法につなげる実践について学ぶ。	